

## 第3次山梨県男女共同参画計画に基づく新規事業の状況

## 1 「地域実践活動支援事業」

## ①目的

- 自治会等地域における男女共同参画を推進するためには、地域の課題解決に男女がともに取り組むことを通じ、男女共同参画の意義、必要性等を実感することが効果的。

地域の課題解決に取り組む地域男女共同参画推進員を委嘱し、それぞれの地域において具体的な活動を行い、男女共同参画の推進に寄与してもらう。県は、ノウハウの提供等具体的活動を行うための支援を行う。また、ロールモデルとして県内の他地域に普及する。

②参加状況 10市町村 25名(市町村の推薦を受けた自治会、地域の活動団体) 任期2年

③講師・コーディネーター 石阪督規先生(東京未来大学准教授)

## ④事業内容

○活動テーマ 「地域における防災」

○具体的な活動内容によって3つのグループに分かれて活動

①グループ1:自治会と連携した防災体制づくり

②グループ2:住民が歩いて手作りした地域防災、安心マップの作成

③グループ3:避難所運営のあり方、地域との連携・支援

○講演会 「地域を変える男女共同参画の試み ―地域が変われば社会は変わる!―」

○研究会 第1回:防災の基礎知識、地域における合意形成手法

第2回:実践活動を行う際の組織づくり、組織マネジメント、事例研究と通じた具体的取り組み検討

○ネットワーク会議

\*各地域推進員が来年度に向けての実践活動計画を作成し、会議の中で発表。

\*この内容に基づき、3つのグループそれぞれ1箇所ずつモデル活動地区を選定し、出前講座等により活動支援を行う。

\*モデル活動地区以外の地区の地域推進員は、モデル活動地区の出前講座等に参加する中で、ノウハウを地元地区の活動へ活かす。

【平成24年度の活動状況】 代表例

## 1 防災・減災体制

①活動地区: 南アルプス市 藤田区

## ②活動目的

\*区の課題に気付き、自主防災会が主体となって課題解消に向けた活動ができるような区民の意識改革を行なう。

## ③活動概要

\*自主防災会が主体となって活動するよう研修会の開催や地域連携訓練の実施、訓練の反省会などを通じて、区民の意識改革を図るとともに、小地域防災班ごとの防災訓練の検討実施を進める

## 2 防災・減災マップ

①活動地区: 笛吹市井之上区

## ②活動目的

\*女性が参画する「減災マップ作成委員会(仮称)」を発足させ、区の現状に即した減災マップを作成。

## ③活動概要

\*減災マップ作成委員会を発足、開催し、勉強会、事例研究等を行いマップ案を作成する。市男女共同参画推進委員地域部会と意見交換会を開催後、区民への説明会を経てマップを作成。

### 3 避難所運営

①活動地区: 甲州市奥野田区

②活動目的

\* 市男女共同参画推進委員会の活動を生かした地域での啓発活動。

③活動概要

\* 市男女共同参画推進委員会と市が合同で「防災・減災」をテーマにフォーラムを開催  
防災リーダーや住民への講習会等を通じて防災意識を高め防災活動へ参加する契機とする  
とともに、寸劇等により地域での啓発活動を実施する。  
区の避難所について、役割や運営などを見直す。

## 2 企業実践活動支援事業

①目的

○ 企業への着実な男女共同参画の推進を図るため、従来の啓発型事業に加え、グループ研究・  
討議を中心とした実践型の推進事業を実施。各企業から参加者を募り、企業における取組状況  
の課題を整理し、具体的な取組を支援する。任期2年

②参加企業 5社 「(株)エスエスワイ」「社会福祉法人ゆうゆう 住吉愛児園」「(株)ダイハツ山梨販売」  
「JA フルーツ山梨」「パイオニアマイクロテクノロジー(株)」

③コーディネーター 渥美由喜(なおき)氏  
(株)東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長

④事業内容

研究会(計3回) 課題の浮き彫り・整理、具体的な取組・手法(個別指導)  
ネットワーク会議 情報・意見交換のための会議  
共通課題への取組の実施、具体的な活動課題

(株)エスエスワイ(富士吉田市松山) 業種: システム開発、データエントリー、販売

<課題> 時間外勤務の短縮、人材育成について

<取組> ◎意識調査の実施・分析

◎各部署から横断的な社員によるプロジェクトチーム立ち上げ

◎ワークショップの開催

社会福祉法人ゆうゆう すみよし愛児園 (甲府市住吉) 業種: 保育施設

<課題> 業務の洗い出しと見直し、人材育成(職員の資質向上)

<取組> ◎職階別のワークショップの開催

◎メンター職員(中堅職員)の育成

◎複数園との合同研修会の開催

パイオニアマイクロテクノロジー(株) (甲府市大里) 業種: 半導体開発、製造、販売

<課題> 社員意識の改善について、介護社員の潜在化

<取組> ◎適正に取組職場に対する評価制度の見直し

◎時間外勤務のデータを社内公表

◎労働時間のモニタリング

フルーツ山梨農業協同組合 (甲州市塩山上塩後) 業種: 営農指導、販売、金融

<課題> 会議の見直し、時間外勤務の削減

<取組> ◎時間外勤務の公表

◎アンケート調査の実施・職員研修

◎人事異動の見直し

山梨ダイハツ販売株式会社（甲府市横根町）

業種：自動車サービス販売

<課題> 時間外勤務の削減、社員の意識改善

- <取組> ◎時間外勤務の公表  
◎職員研修  
◎人事評価制度の見直し

### 3 出張トークの開催（関係団体、NPO 等との連携・協働）

①趣旨 男女共同参画について、市町村の推進委員会、地域活動、子育て、企業等様々な団体の定例会等に併せ出前講座を開催し、男女共同参画の意義、メリットなどを伝えることにより一層の意識啓発を図る。

②活動状況 県で作成した啓発資料を使用しながら説明、意見交換を実施

<H24 年度実績> 82か所

- 市町村推進委員会 定例会参加
- 市町村 計画策定支援・推進活動への助言
- 自治会 区長会、組常会への参加
- 企業 社員研修等の打合せ
- 学校 研修への参加
- 幼稚園・保育園 PTA 研修会への参加
- 高齢者（地域サロン） 研修会への参加
- 団体 研修会・定例会への参加

③議題

- 「地域での男女共同参画の必要性」「ワーク・ライフ・バランスについて」
- 「市町村の推進状況」 「地域でのまちづくりと男女共同参画」

<寄せられた意見>

①男女共同参画について

- \* 男女共同参画の推進について、住民と委員との意識の差（ズレ）はどのようにすれば解消できるのか。「男女共同参画」をテーマに学習会を計画しても、住民の参加が少ないのが現状。
- \* 男女共同参画を行政が公費を使って推進する意味が正直理解できない。もっと行うことは別にあるのではないか
- \* 「男女共同参画」って言葉がわかりにくい。
- \* 防災というテーマは、非常にわかりやすいテーマだと思う。
- \* 市町村間で推進委員会は様々な活動を展開しているが、まずは自分にできることを行なうことが大切である。推進委員個人も地元を変えることが一番難しい。
- \* 男女共同参画と言われても、あまり共感できなくても、防災の時に女性の意見が必要といわれると、そのとおりと思う。具体的な事案があると理解してもらいやすいのではないか。
- \* 男女共同参画を全面に出さずに、「フリーマーケット」「試食会」「体験コーナー」「アンケート調査」など参加者が一緒にできるイベントへ以降していくことが必要。
- \* 実践活動を行っている人（企業・団体）の声を届ける。（紙面・ケーブルテレビ）要は具体的な事例を挙げ、活動している人を褒める。
- \* 男女共同参画に関して地元で推進している人、過去に推進していた人など、様々な立場の方々との意見交換を行い、理解者を活用して地域での活動につなげていく。
- \* 災害等が起こっても人を助け出すこともできず、自分が逃げる、生き延びることで精一杯 それが現実。だからこそ、日頃からのコミュニケーションづくりが必要ということを感じてもらう

## ②固定的性別役割分担意識

- \* 家庭では男女平等である。しかし職場や自治会などに、自分より上の立場の役職に女性が就任すると思うと正直気分は良くない。
- \* 若い世代は、男女ともにやれる人がやればいいと考える人が多いが、50歳代より上の世代の方々は、両親の影響もあり、なかなか割り切れない。
- \* 地域での推進の好事例として、具体的なクイズを通して固定的役割分担意識について考えた。  
身近なテーマに基づき、楽しんでもらう雰囲気づくりが必要
- \* 地域での道祖神祭りを開催した。今まで男性でしかも高齢者ばかりが役員として参加。役員の選出で難航したため、女性の参加も可能としたところ、結果として9割が女性であった。  
今までにないやり方も取り入れたところ、若い世代の参加も増えて、女性たちも自信をもつことができた。

## ③意思決定過程の女性の参画

- \* 意思決定に女性を参画させるというが、自分にやってほしいと言われてもできない。どうしていいのかわからない。会議等に積極的に参加して、そういう中で責任ある発言しろと言われても、自分の意見をどう伝えていいのかわからない。

## ④これからの活動について

### <行政>

- \* 高齢者の生きがい、居場所づくり、さまざまな困難な問題を抱える子どもたちのかけこみ寺の充実
- \* 行政は法整備などから女性の参画、男性の参画を呼びかけてもいいのではないか。
- \* 地域課題を取り上げるのであれば、県民に課題を提案させてもいいのではないか
- \* 「ダイバーシティ」ということに関心を持ち、障害者、外国人などへの相互理解ということを取り組むことが大切。

### <推進活動について>

- \* 自治会を動かすことは非常に課題。自治会活動に男女共同参画委員会などがどのように関わっているのか。どうしたら自治会活動を動かすことができるのか関心がある。
- \* 地域活動について、NPOのような組織体ではないが、地域活動を行なっている団体やグループ同士の横のつながりが必要。男女共同参画推進委員会もそういう市民団体と交流していきたい。
- \* 自分の住んでいる町を良くしていこうと、先月からまちづくりをテーマに自治会で話し合いを始めた。自治会役員だけでなく、民生委員、教員などとネットワークを組みながら進めていく予定。
- \* 男女共同参画に対する地域への啓発は難しいものの、できるだけ委員のモチベーションを保っていくために、委員会へ参加することが楽しいと思えるような雰囲気作りを心がけている。
- \* 男女共同参画に携わって感じたこと。男女共同参画推進活動に一発ホームランなんてなくて、こつこつ推進していくことが重要。根気よく裾野を拡大しながら進めていく。
- \* 「やってあげるではなくて、一緒にやる」という考えの中で、障害者や外国人に声をかけ、地域の啓発のパンフレットの作成や外国人向けの翻訳などを一緒に活動していく。
- \* 男女共同参画はいろいろな人たちの話を聞くという態度から始まる。ダメだしをしない。良い話は良いと認める。
- \* 「気づき」から始まる。
- \* 男女共同参画が最近は防災をテーマに取り上げることが多いが、その他に何かわかりやすい内容の事案がないか。
- \* 若い人が自治会活動に積極的に関わるには、他の事例の研究が必要